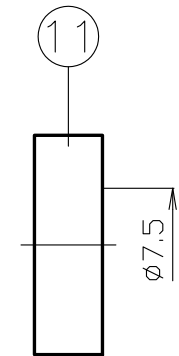
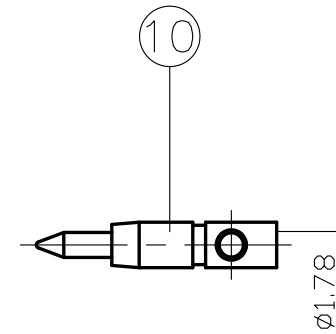
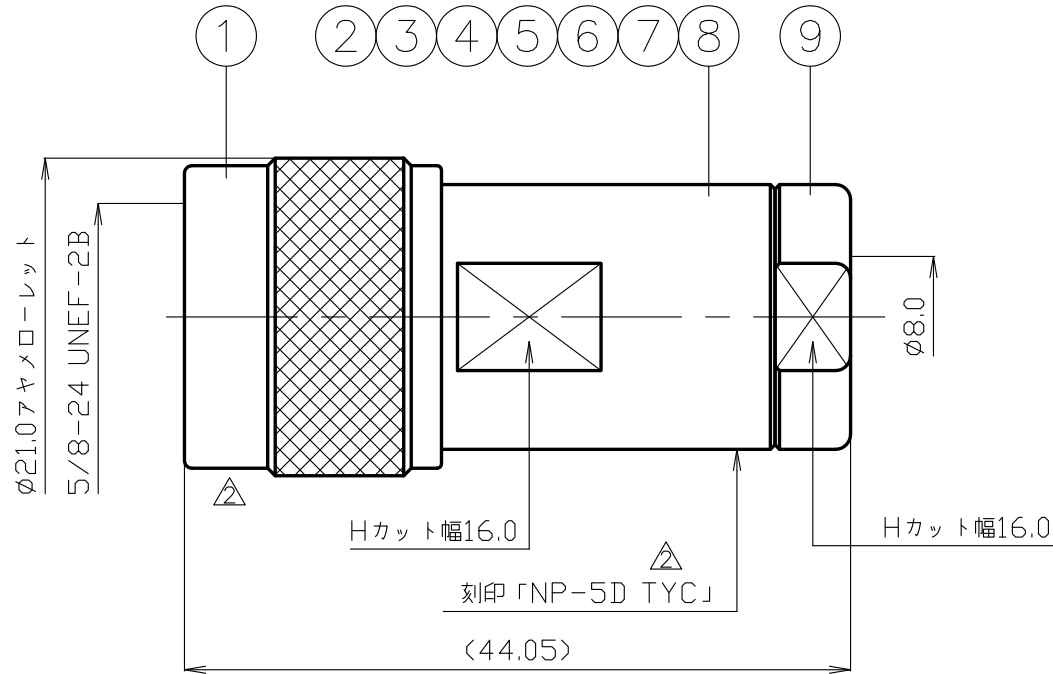


番号	変更・記事	日付	確認
△	社名変更	2012.01.05	済
△	刻印位置・内容 変更「NP-5D」→「NP-5D TYC」	2016.07.29	山本
△	RoHS表記 変更	2016.07.29	山本



11	ガスケット	シリコンゴム	1	--	
10	中心コンタクト	黄銅	1	Au	
9	締付金具	黄銅	1	Ni	
8	シェル	黄銅	1	Ni	
7	ワッシャー	黄銅	1	Ni	
6	クランプ	黄銅	1	Ni	
5	ブッシング	黄銅	1	Ni	
4	絶縁体	テフロン	1	--	
3	保持リング	リン青銅	1	--	
2	ガスケット	シリコンゴム	1	--	
1	接続ナット	黄銅	1	Ni	
番号	部品名	材質	数量	処理	備考

尺度	2/1
単位	mm
日付	2011.08.01

製図	検図	承認	確認
渡邊 '16.07.29 直弘	檜 '16.07.29 澤	山 '16.07.29 本	三 '16.07.29 村



RoHS Compliant [Cd ≤75ppm]	
REMARKS	BRASS: Cd ≤75ppm PHOSPHOR BRONZE: Pb <4wt%

品名	NP-5D
図番	J-0513870

仕 様 書

品 名 NP-5D

No. 0511387

図 番 J-0513870

株式会社トーコネ

定 格 1 参考規格 JIS C 5411
 2 定格電圧 AC 500V
 3 定格周波数 5 GHz
 4 公称インピーダンス 50Ω
 5 使用温度範囲 -40～85℃

確 認	検 印	作 成
山 17.09.01 本	檜 17.09.01 澤	渡邊 17.09.01 直弘

項 目		条 件	規 格
1	構造及び形状寸法 材 質 仕上げ及び表示	添付図に示す	異常のないこと
2		(図番 J-0513870)	
3			
4	電 絶縁抵抗	DC 500V	1000MΩ 以上
5	気 耐電圧	AC 1000V 1分間にて	異常のないこと
6	的 接触抵抗	接触間の電圧降下は、約1kHzの交流又は 直流で1mVを越えない方法にて	3mΩ 以下
7	特 電圧定在波比	周波数 5000MHzまで	1.2以下
8	互換性	規格に準ずるコネクタと結合したとき	異常なく結合すること
9	機 適合ケーブル	【50Ω】5D-2V・EM-5D-2E ※1・5D-2V-S ----- 【75Ω】5C-2V・5C-FB・S-5C-FB・5C-FV EM-5C-FB・EM-S-5C-FB ※2	
10		ケーブル接続強度	軸方向引張力 200N以上
11	性 結合部接続強度	軸方向引張力300Nの引張力を加えたとき	接続ナットに 異常のないこと
12	繰り返し動作	5000回の抜き差し後	接触抵抗は10mΩ 以下
13	耐 耐食性	5%塩水で連続48時間試験した後 コンタクトを10回抜き差しし	耐電圧は5の項を 満足し接触抵抗は 50mΩ 以下

※1 (株)フジクラ5D-2V・関西通信電線(株)EM-5D-2Eケーブル取付にて仕様確認

GKQM-19-1

※2 75Ω系ケーブルを接続した場合は、上記の電圧定在波比の保証外となりますのでご了承下さい。

	変更履歴	日 付
1	適合ケーブル追加	2011.12.16
2	社名変更	2012.01.05
3	12.繰り返し動作 13.耐食性 追記	2012.05.16
4	使用温度範囲 追記、適合ケーブル追加	2015.12.22
5	適合ケーブル「5C-2V」追加	2017.09.01

NP-5D 取付仕様書

部品構成

適合ケーブル：5D-2V、5D-2V-S、EM-5D-2E(5C-FB、S-5C-FB、5C-FV、EM-5C-FB、EM-S-5C-FB)

図番 J-0513870

作成

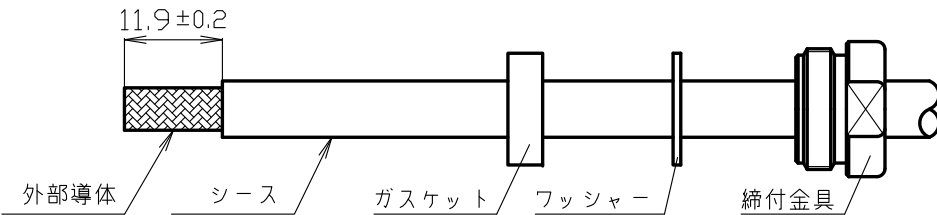
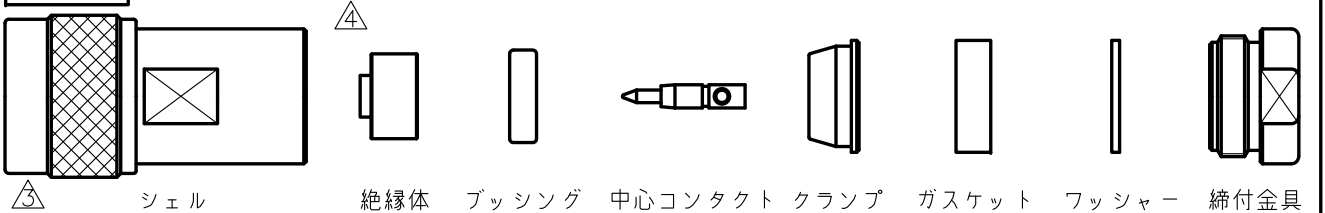
確認



株式会社 トーコネ
TO-CONN CO.,LTD.

渡邊
'16,07,29
直弘

山本
'16,07,29
本

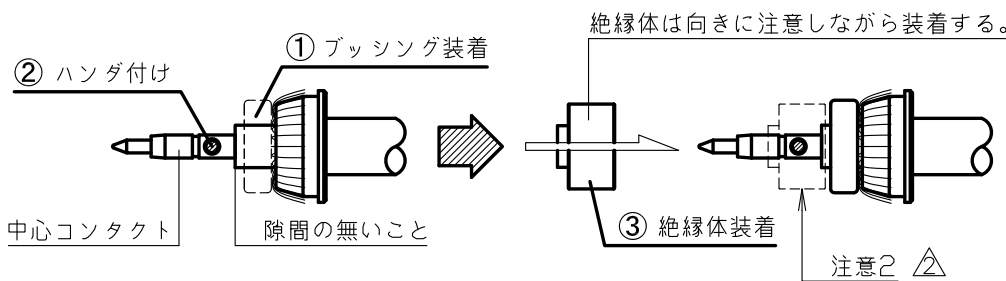


① 同軸ケーブルへ締付金具、ワッシャー、ガスケットの順に通し、シースを図中の寸法で切り外部導体を出す。

番号	変更・記事	日付
①	社名変更	2012.01.05
②	注記追記	2016.03.14
③	刻印位置変更に伴う表記削除	2016.07.29
④	適合ケーブル 追記	2016.07.29

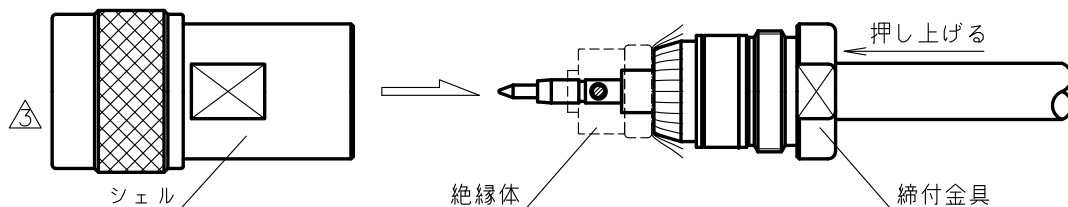


② 外部導体をクランプに通す。
次に、外部導体をほぐし折り返して切りそろえる。
図中の寸法で絶縁体をカットし、中心導体を出す。

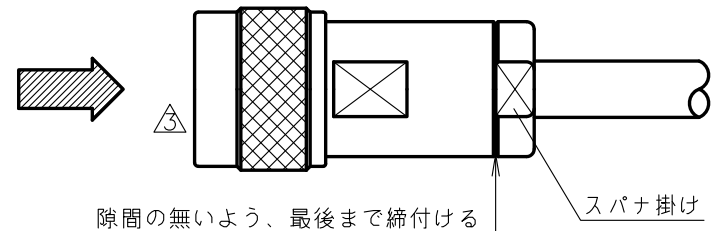


③ ① ケーブル絶縁体にブッシングを装着する。
② 次に中心コンタクトを中心導体にセットし、ハンダ付けする。
ハンダが盛り上がらないよう作業を行いハンダ付けの後、中心コンタクトを手で引張り抜けない事を確認する。
注意1： 中心コンタクトとケーブル絶縁体の間に隙間が無いこと。
また、熱によりケーブル絶縁体の変形しないこと。
③ 次に絶縁体を装着する。絶縁体の装着は向きに注意しながら行うこと。
注意2： プチンと絶縁体が定位置に入った事を確認する。

④ 締付金具を押し上げて下図の状態にし、シェルを装着する。



締付金具をスパナ等で締付け作業を完了する。



隙間の無いよう、最後まで締付ける
スパナ掛け